○給付開始日とは、連続した3日間の待期期間が経過し、はじめて傷病手当金が受けられる日(4日目)をいいます。
※待期期間については有給休暇を使っていても差し支えありません。待期期間の完成についても確認してください。
○2回目以降の給付開始日は1回目で決まった給付開始日を記入してください。
○請求する期間は1カ月分ごとにご請求ください。(まとめての大量日数の請求はできるだけご遠慮ください。)
○傷病名が外傷の場合には下記「負傷届」欄の記入または「第三者行為による傷病届」(所定用紙)を提出が必要です。
※負傷届は負傷した時間に注意して、いつから請求日とするのか確認してください。
○はじめて(第1回目)の請求で請求する期間が療養の給付を開始した日(病院へ行く前)より前からの場合には、
その間の「療養の状況報告書」(所定の用紙)を添付してください。○記入・添付書類・訂正印・印鑑のもれのないように確認願います。
○被保険者が死亡した場合の請求は、相続人が被扶養者以外の場合は、戸籍謄本を添付してください。
○障害基礎年金・障害厚生年金を受けたときは、年金証書(裁定通知書)の写しを添付してください。
障害年金を受けることとなった傷病名もお知らせください。

健保担当者用チェックポイント

右づめで記入してください

被保険者の疾病または負傷のため療養をするため休んだ期間について証明してください

押印漏れはありませんか？

医師意見の労務不能期間より事業主の労務に服さなかった期間が長い(開始日が早い)場合は「療養状況報告書」を添付してください(請求第1回目のみ利用できます)

日数が合っているか電卓で確認してください

合計日数が合っているか確認してください

日額は、小数点以下2桁まで記入してください

・「公休」で支払いがある場合は、有給同様△で表示し、日数は「有給計」欄に記入、金額も同様「有給のみ」欄に記入する ※有給がある場合は、プラスした合計を記入してください
・「公休」で有給日額が異なる場合は「※一部支給した(する)合計に記入してください」

「労務に服さなかった期間」の「期間中の分として支払う報酬関係がない場合」は記入する必要はありません

証明日は、労務不能と認めた期間以後の日付を記入してください

被保険者証の記号と番号	記号 9 9 9 / 番号 9 9 9 9	被保険者の氏名	小田急 太郎
生年	☑ 昭和 ☐ 平成 ☐ 令和 40年	健保担当課長	印
事業所の名称	〇〇〇〇〇 株式会社	被保険者の業務の種別	事務員・乗務員・調理士・配送掛・販売員・整備士など
係長			
① 発病または負傷の年月日	不詳 年 月 日	ケガ(負傷)の場合は、下記の負傷届に記入ください。	
給付開始日	☐ 平成 ☑ 令和 1年 5月 4日	請求回数	第 2 回
係員			

被保険者 〒〇〇〇〇 東京都多摩市〇〇〇4-5-9
電話 〇〇 (〇〇〇〇) 〇〇〇〇 方

1年 6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	計 1	3
年 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	計	
年 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	計	

労務に服さなかった期間 ☐ 平成 ☑ 令和 1年 6月 1日から ☐ 平成 ☑ 令和 1年 6月 30日まで 30日間

うえの期間中の分として支払う報酬関係

● 上記「労務に服さなかった期間」のうち全額支給した(する)場合で【出勤は〇】【有給は△】【公休は/】【欠勤は無印】で表示してください。
● 上記「労務に服さなかった期間」のうち一部支給した(する)場合で【一部支給をした(する)場合は□】で表示してください。

②事業主が証明するところ

※有給のみ 合計 3日間の分として 金 24,000 円〔日額 金 8,000.00 円〕 (6月 25 日支払)

※一部支給した(する)合計 日間の分として 金 円〔日額 金 円〕 (月 日支払)

☑ 上記以外 現在までも、また将来も支給しない場合は、その旨

☑ 給与または就業(賃金)規則(程)により支給しない ☐ 現在までにもまた将来も支給しない ☐ その他 ( )

うえのとおり相違ないことを証明します 令和 1 年 7 月 10 日

事業主 所在地 東京都新宿区〇〇〇8-8-8
名称 〇〇〇〇〇 株式会社
氏名 人事部長 〇〇 〇〇

株式会社 〇〇〇〇

・2カ所同じ印でお願いします。訂正印はこの印をご使用ください。

③療養を担

傷病名	※ 労務不能と認めた傷病名のみ記入してください (1) 急性肝炎・慢性腎不全 (2) 胃潰瘍・右足骨骨折など
初診日(左記の療養の給付を開始した年月日)	(1) 令和 1年 5月 1日 (2) 令和 1年 5月 1日
	不詳・階段から落下・ストレス・交通事故など
左の期間中の診療実日数	7 日間

結果、療養指導」等、詳しくご記入願います
状認め当科受診し、その後、38度の発
検出されず。〇/〇～〇/〇まで入院点滴
〇日退院に至った。その後1週間は自宅安

医学的な所見

☐ 現時点では不明である

令和 1年 6月 30日

病院 〇〇〇〇 〇〇〇〇

労務に服さなかった期間の日数分)

が、必ず「労務に服さなかった期間」以後の日付

」の添付が必要です

」より事業主が証明するところの「労務に服さなかった

後の日付(年月日)になっていること
養状況・日常生活状況報告書」の添付が必要

受付日付印

7.「うえのとおり相違ありません」の受付日は医師の意見は労務不能と認めた期間以後になっていること
《④ その他》
8.訂正される場合は、訂正箇所二重線で末梢し、正しい内容をご記入ください。二重線の近くに末尾に押した印を訂正印として、それぞれの記入者(被保険者・事業主・療養担当者)による押印または氏名の署名が必要
9.印ははっきり押し、捺印もれのないようにしてください

うえの決定金額の受領方を 代表取締役社長 に委任します

令和 1年 7月 3日 氏名 〇〇〇〇〇

小田急グループ健康保険組合理事長殿 被保険者氏名

小田急

2022.1